

教育交流と学生支援活動の体系化に向けて

～留学生センター相談室活動報告～

田 中 京 子 ・ 柴 垣 史

1. はじめに

2009年度は、これまで継続して行ってきた活動を体系化しながら発展させることができた。グローバル30の推進に伴って海外留学室のスタッフが增強され、これまで海外留学室でも週1日勤務していた柴垣が、その1日を組み入れて週3日間留学生センター相談室で勤務できることになり、相談対応が充実した。一方留学生相談室でもメンタルヘルス専門教員が増員されたことから、心身不調を訴える学生の対応について連携をより強めることができ、学生たちにとっても相談員にとっても勉学・生活の相談体制が強化されたと言える。また経費助成を受けることができたため、様々なワークショップを体系化し、より発展させて提供することができた。

今後益々盛んになるであろう全学レベルでの国際教育交流について、積極的に関わっていくことの重要性が改めて認識された一年であった。

2. オリエンテーション：

情報提供, 信頼関係構築, 交流促進

留学生の渡日前から修了後にいたるまでの参加型、交流型、日本語・英語併用オリエンテーションを継続・充実させた。

(1) 渡日前オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）

例年と同様、柴垣が事務室と協力して「入学前ガイドブック」を入学予定の学生たちに送付し、ホームページ上にも掲載した。留学生センターに所属する学生たちには、渡日前からスタッフや学生たちと交流して信頼関係を築いていけるよう、渡日前情報誌を作成し郵送した。在学中の留学生や修了生が情報提供者として登録したため、新入生・スタッフ・先輩学生たち

が連携体制をとることができた。新入生の空港への迎えについても、チューターや先輩留学生たちの協力も得て行うことができた。

(2) 到着後オリエンテーション（留学生センター所属学生対象）

例年と同様、柴垣が中心になって4月と10月に数回に分けて行なった。事務室、相談室、日本語部門の連携により順調に行なえた。

(3) ワークショップ型オリエンテーション（全学学生対象）

これまでのワークショップを体系化し、「日本の伝統文化」「日本の生活」「世界の言語文化」という枠の中で、様々なセッションを提供した。後期は留学生支援事業に採択されて予算がついたことから、講師執筆による独自教材を整えながら様々な取り組みを行った。

他部局と連携してセッションを企画・運営したり、学生ボランティアグループや文化サークルが主体的に企画・運営・実施するセッションに協力したりして、日本と世界の言語・文化を多角的に学ぶ機会を提供することができた。

ワークショップの実施と内容（添付資料1, 2参照）

【日本の伝統文化】

これまで講師として協力してくださった方々が引き続き各セッションで講義と実践指導を行なってくださった。新たな企画として「日本舞踊」「折り紙」を取り入れた。「日本舞踊」は、講師がボランティア活動の一環として協力してくださり、海外留学を目前にした学生が留学準備として、日本文化を紹介するアイデアを身につけられるよう、参加を呼び掛けた。「折り紙」では、これまで工学研究科で折り紙講座を約10年間続けてきた「白ゆり会」の池井経子氏が、これまでの活動も活かした形で資料を作成し講座を準備してく



ださった。これら日本の伝統文化を学ぶ講座は、これまでのワークショップの蓄積を生かして、今後授業としても開講していく予定である。

【日本の生活】

- ・防犯：千種警察署の協力指導により、この地域で起きた事件を紹介しながら、交通安全に関することや、事故防止、防犯に対する知識を高めるセッションを行った。護身の基本も学んだ。
- ・地震：今年度も環境学研究科との連携により、名古屋に住む外国人留学生、研究者のための地震防災研修会として初級レベルの講習を行なった。同研究科とは昨年度に引き続き防災研修開発のプロジェクトを進めた。
- ・引っ越し：例年のように、国際交流会館の退去時期の2～3カ月前に行ない、余裕を持って引っ越しの準備ができるようにした。

【世界の言語文化】

- ・前期は、イスラム文化会の新企画「アラビア語初級講座」13回シリーズに協力した。イスラム圏出身の学生たちを中心に十数名が受講した。
- ・後期は、イスラム文化会と学生支援プログラムとの共同主催で「アラビア書道」講座4回シリーズを開催した。様々な文化圏の学生たち約10名が受講した。

落ち着いた雰囲気の中で竹ペンを使って美しい文字を書いていく作業からは、にぎやかな活動を通してとはまた異なる交流が生まれた。

**Islamic Culture Association
in Nagoya University**
ICANU
イスラム文化研究会
OFFERS

**Introductory
Arabic Course**
Spring 2009

In this course you will learn Arabic alphabet, construct Arabic noun and verb sentences, and you will be able to comprehend and engage in short conversations about familiar topics.

**April, 14 Tuesday
17:30 – 19:00 pm**

Class Time: Every Tuesday from 17:30 – 19:00
Course Duration: 3 months, starting on Tuesday, April 14, until Tuesday, July 14
Place: ECIS Room 202
Registration and more information: you can send email to: icanu_q@yahoo.com

Co-organized by ECIS (adv@ecis.nagoya-u.ac.jp) TEL: 052-789-5884

Arabic Calligraphy (Nashk script)

Hosted by
Arabic Studies Support Programme, Nagoya Univ., ECIS, ICANU

4 sessions in December: January (Dec. 11&18, 18&22)
 • 1st session (11 Dec): about Arabic Calligraphy, basic strokes
 • 2nd session (18 Dec): writing isolated forms of all the letters
 • 3rd session (15 Jan): writing connected forms and words
 • 4th session (22 Jan): producing the final work

Place: Room 202 in ECIS
Time: 17:00-18:30
Capacity: Max. 20 people
Language: English (other languages occasionally)
Tools: Necessary tools (pen, calligraphic ink, paper and mat) are provided
Instruction by: I. Kaboulala (Arabic Studies Programme)

Open for Students/Faculty staff who have basic knowledge/experiences on Arabic letters.
Please apply to ECIS (adv@ecis.nagoya-u.ac.jp) by e-mail.
Application is accepted during November from 09:00 to 16:00hrs but the only first 20 persons can attend the class.



- ・新企画としてアルゼンチンのタンゴ音楽・ダンスについての講演・実演会を、国際開発研究科国際コミュニケーション専攻と共催して開催した。ワークショップでシンポジウムホールを使用するのは初め



てだったが、学内外から約80名が参加し盛況であった。普段あまり触れることのないタンゴ音楽の歴史や広がりについての国際開発研究科の西村秀人准教授の講演に続いて、タンゴダンスのプロ（タンゴダンススタジオ「デスティノ・タンゴ」の招待講師）から、踊り手としての気持ちなどの話しと実演があった。同研究科の大学院生たちが、その高い能力を活かしてスペイン語→日本語の通訳・翻訳を担当した。「間違いを恐れずに積極的に外国語を聞き話す」プログラムであるランゲージシャワーは、前年度から引き続きワークショップの言語交流セッションとして取り入れ、7名の学生ボランティアが企画・運営・実施を自主的に行う活動としても、軌道に乗り始めた。（次項の「交流プログラム」に詳しく記す。）

(4) 交流プログラム

留学生センター相談室では、ワークショップ以外に、「パートナーシッププログラム」（教育交流部門により1998年4月開始）と、「ランゲージシャワー」（添付資料3参照）の2つの交流プログラムを、柴垣が中心になってコーディネートしている。

【情報発信の窓口、交流のきっかけとしての

パートナーシッププログラム】

パートナーシッププログラムは、国際交流を希望する学生の登録により、一般学生と留学生を1対1で紹介し、自由に交流を始め、交流の輪を広げる「きっかけ」を提供するものとして始まった。登録に際しては、マッチングの参考とするために登録の目的、興味や趣味、交流で使用したいコミュニケーション言語（外国語の場合は、参考程度にレベルを問う）を面談により聞き取っている。紹介後は、特に活動報告は必要とせず、双方の自由意思により交流を続けてもらうことにしている。1対1での交流以外に、登録者の時間とニーズに合った活動や交流が見つけれられるよう、また、一般学生同士、留学生同士でも新しい友人を見つけることができるよう、登録者に学内外の交流情報を提供している。

学内のチューター制度が整った今、一般学生と留学生が1対1で出会い、チューター支援の中で交流を育む機会が増えており、実際にパートナー登録した学生に、留学生のチューターとして交流を始めてもらうことがある。しかし、チューター制度上の時間の制限や

書類作成などの手続きにとらわれ、支援から生まれる交流を意識できないでいる学生もおり、新たにパートナーを求めるケースも複数あった。一般学生と留学生の混住寮に住む学生たちが、パートナーを求めて登録するケースもある。パートナーを紹介しても、最初の2、3回連絡を取り合っただけで、その後は交流が続きぬまま、立ち消えてしまうケースもあり、それぞれ、交流が育まれるであろう環境にあっても、当然ながら個々の要素がうまく噛み合わなければ、交流の発展は難しい。

一般学生と留学生の登録数の違いや、登録者のニーズに合う候補者がいないなど、紹介までに時間を要する、あるいは、紹介後に何らかの理由で交流が続かない場合には、個人対個人ではなく、学生交流グループの活動や、交流イベントの参加によって交流のきっかけを見つけてもらうように、メールや学内掲示により常に情報発信に努めている。しかしながら、情報がどこにあるかわからない、たくさん有り過ぎてわかりづらいという情報の受け手の声が聞かれ、情報整理による効果的な広報の在り方を他交流グループと一緒に検討していく必要がある。

【チャレンジを多面的に支援するプログラムとしてのランゲージシャワー】

2007年1月に留学生センターワークショップの言語セッションの一環として始めた「ランゲージシャワー」は、2008年度から、プログラムのファシリテータとして、学生ボランティアが企画・実施に協力し、その後、運営、企画、実施を学生が自主的に行うプログラムに発展しつつある。

学生の自主性を尊重しながらプログラムとして成立・存続させることは、学生にとっても、コーディネータにとっても容易いことではない。アイデア企画



ランゲージシャワーで



をセッションで実行すること、それを外国語で行うこと、ファシリテーションのテクニックが必要であることなど、学生の多くにとって初めてのチャレンジであり、企画が難航したり、実践において消極的になったりすることもしばしば見受けられた。コーディネータとして、言語面では、留学生を言語サポーターとして起用し、毎回のセッションで使えるフレーズを学習したり、学生ファシリテータには、2月に開催されたグローバルリーダー育成プログラム「国際交流に役立つ「ファシリテーション」を身につけよう！」(留学生相談室・留学生センター主催)に参加するようアドバイスするなどし、新しいサポート、知識を得て、「とにかくやってみる」をスローガンに、学生の自主性を刺激することに努めた。

このプログラムはファシリテータの学生と共に、外国語を話すことに自信がないと感じている参加者全体のチャレンジを促すためのものなので、参加者に、自分だけではない、同じようにやってみよう、という安心感を与える要素も必要である。活動を続ける中、学生ファシリテータの失敗を恐れないチャレンジが、ほかのファシリテータ学生や参加者の背中を押し、新たなチャレンジを全員で支援する雰囲気生まれた。また、ファシリテータの学生たちが、プログラムで得られる効果をより高く期待し、様々な改善を提案、議論するようになった。

多くの学生グループが、就職活動や授業カリキュラムの都合などにより、スタッフ活動の継続について課題を抱えているものと思われる。ランゲージシャワーは、コーディネータのサポート介入の割合が高く、学生が主導する持続可能なプログラムとしては発展途上にある。G30により学内の国際化がより進む中、外国語運用スキルの向上が望まれている。そのような中でランゲージシャワーの在り方も変化していくと思われる

が、プログラムに関わる学生自身が失敗を楽しみながらチャレンジできるものとして存続することを願っている。

なお、学生スタッフがまとめた昨年度本プログラムの報告については、『名古屋大学国際交流グループ2009年度活動報告書』(2010年3月、名古屋大学留学生相談室・留学生センター発行)を参照されたい。

2. 学生個別教育：相談

相談室での相談活動を「個別教育」と位置づけ、名古屋大学の留学生に限らず、在学生や他大学へ進学した学生、地域構成員などの相談にも可能な範囲で対応した。

(1) 相談時間

これまでと同様の相談時間確保(週7-8コマ分)を目標とした。相談時間を掲示し、その他の時間でも在室中は適宜相談に対応した。電子メールでの連絡や伝言ボックスへの連絡は常時受けられるようにした。

(2) 相談件数

これまで多くあった電子メールによる入学・留学相談は減少している。各学部・研究科それぞれの入学案内がインターネット上で整備されてきたためだと思われる。相談室来訪は今年度は割合多く、大きな問題がなくても相談室に寄って日本語学習の質問をしたり感想を話したりする学生たちもいた。相談室がより身近に感じられるようになったためではないかと思われる。

(3) 特徴的な相談内容

様々な相談の詳細その背景については、個人の生活に関わることなのでここで報告することができないが、特徴として以下を報告し、今後の活動に活かしていきたい。

■指導教員

進路を強く影響する指導教員との関係についての問題は深刻である。今年度もいくつかの問題があり、相談室では本人の留学目的の達成や大学の研究環境改善について、短期的・長期的に対策を検討し、適宜研究室の先輩学生等の力も借りながら可能な範囲でアドバイスした。個別のケースで関係教員と情報共有をするのは不可能な場合も多いため、一般的なケースについ

て多くの教員たちと情報共有できるような体制を作
ていきたい。

■勉学・研究

今年度も、留学前の期待や希望と現実の環境の違い
に適応できずに悩む学生がおり、留学生相談室のカウ
ンセラーと連携して対応した。国費留学生の場合には
特に、奨学金を得て渡日した責任についても自覚を促
したうえで、進路について助言したり、先輩留学生を
紹介したりし、よりよい選択ができるよう支援した。

日本語の学習が思うように進まないことについてス
トレスを抱える学生も数名いた。言語の習得の過程で
は上達が止まったように感じる段階があることや、集
中でできない別の要因が隠れていないかなどについて話
し合いながら難しい時期を乗り越えていった。個人で
ノートPCを持たない学生から、CD教材による日本
語学習が思うようにできないとの相談を受け、日本語
教員から機器を貸し出してもらった方法をとった。学内
のPC環境整備だけでは個人学習においては十分に満
たされないことがあることがわかった。

日本語研修期間後に別の大学で専門研究をする学生
の場合、行く先の様々な情報を必要としているため、
相談室と事務室で協力して滋賀大学や愛知教育大学と
の連絡調整を行った。

研究科での事務手続きにおいて、スタッフから学生
の人格を否定すると思われるような対応を受けたと
言って相談に来た例があった。実質的に事務手続きが
進むよう配慮しながら、コミュニケーションのとり方
について助言した。

修了生から、元指導教員との関係において相談が
あった。修了生は様々な場面で元教員からの推薦等が
必要になり、良好な関係は在学中だけでなく修了後も
長年にわたって課題となっている。

■宿舎

国際学生交流課の尽力もあって環境改善がはかられ
ているためか、民間宿舎問題では大きな問題が寄せら
れなかった。国際交流会館等でもスタッフや寮生たちの
創意工夫で環境改善されている様子である。学生
チューターのサポートもあり、早めに民間アパートへ
引っ越すケースが例年より多かった。

留学生との親交がきっかけになって2006年に留学生
用マンション「メヘルバン本州」を建設してくださっ

た本州建設(株)代表取締役田口宗男氏に、2009年3月総
長から感謝状が贈られた。

■医療・健康・安全

新型インフルエンザの流行が大きな問題になった一
年であった。学生たちへも来日前から注意をうなが
し、手洗い・うがいの励行を呼び掛けた。この流行に
よって、家族の呼び寄せ時期を変更する学生もあつた。
心身の不調をきたした人の中には入院した学生も
あり、同級生の助けを受けながら入退院の手続き等の
支援にあたった。自転車事故で顔面に怪我をし、数か
月の治療を必要とした学生がいた。感染防止のために
マスクが必要だったが、インフルエンザの流行でマス
クが不足しており、同僚たちから募ったりした。

残念ながら、毎年、交通事故に巻き込まれたり、運
動中にケガをする学生がいる。通学中・課外活動中の
事故には、日本国際教育支援協会による保険への加入
が義務付けられているが、それだけではカバーできな
い事故も多い。総合保険加入について到着後のオリ
エンテーションでも強く勧めている。

以前から心身の不調を抱えて解決の糸口が見えな
かった学生たちの問題について、留学生相談室の異文
化間カウンセリング専門の教員たちから協力を得なが
ら対応した。解決にはまだ時間を要しそうなケースも
複数あるが、できる限り支援していきたい。

■家族

留学中に、母国にいる家族が健康を害したり亡く
なったりして、一時帰国する学生が複数いた。渡日直
前に出産し、幼い子供を残して渡航した学生も複数あ
り、留学生自身の新しい環境への適応、家族呼び寄せ
の計画、残された家族の環境の変化などについての相
談に対応した。

日本も新型インフルエンザの感染地域となり、家族
の日本への渡航を見合わせる例があった。家族の病気
が深刻なため、学期途中で一時帰国の予定で出国した
学生がいたが、その後日本に戻らない時期が続き、関
係機関で対処した。

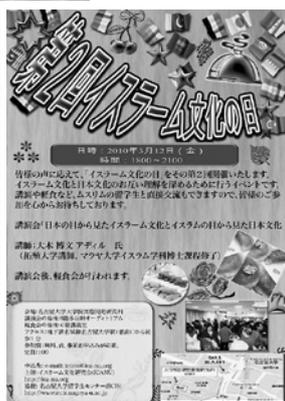
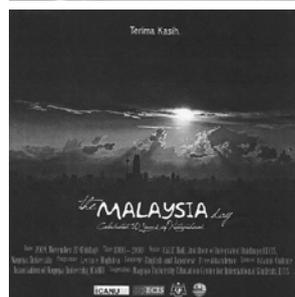
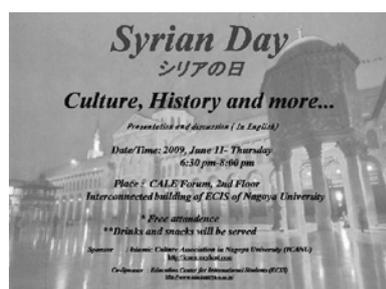
■学生組織との連携

今年度も留学生を中心とした大学院生が主催して、
国際・学際学会 FeedForth が開催された。第4回目
となった今回は、留学生センターは広報の面で協力し

ただで、すべてを大学院生が自主的に行った。日本人学生の発表も増えてきて、今後が楽しみである。大学院生たちの、研究に対する真摯な姿勢が今後よい形で繋がっていくことを期待している。学生支援関係機関で名大版サイエンスカフェの構想があり、今後FeedForthも連携の可能性を探っている。

ICANU（名古屋大学イスラム文化会）とも協力して活動した。昨年度、金曜集会のために豊田講堂内の展示スペースが使用できることになったが、この場所の存在が学内に知れ渡ってきたことから、今年度は他のグループによる予約も増え、ICANUが予約できないことも多くなった。その都度他の場所を探して予約し、多くの会員に周知し移動しながら集会を持っていたが、その調整の負担は大きいものであった。一定の場所の確保を望んで、今年度12月に再びICANUが、ムスリム学生140名の氏名と所属のリストをつけて総長宛に依頼状を送った。関係部署で検討され、その結果、来年度からは国際交流会館インターナショナルレジデンス東山の会議室が1カ月ごとに予約できるようになった。この会議室では、長年に渡って毎週金曜日に留学生の家族のための日本語・日本文化講座が開催されていたが、来年度からは講座日程を変更し、金曜日にICANUの使用が可能となるような配慮がされた。

ICANU主催、留学生センター共催の「各国紹介の日」では6月にシリアを、11月にマレーシアをとりあ



げ、美しい映像も使って英語と日本語による紹介講演を行った。言語を駆使して行う発表と活発な質疑応答は、多文化交流の醍醐味を感じさせるものだった。「イスラム世界フェスティバル」も昨年に続いて3月に留学生センターが共催した。研究者の講演の後、イスラム世界の食事を楽しむという企画で、学内外の100名以上が集い、学びの多い会となった。

■交流・研修

パートナー制度、ワークショップ等の参加登録などで相談室を訪れる学生たちは多い。その機会に、交流や進路についての相談を受けることもある。「英語のネイティブ話者と友だちになりたい」という希望は多く、その理由としてネイティブ話者でなければ正しい英語が話せないとか、ネイティブ英語を学ばなければいけないというような思い込みがあるようである。ネイティブ話者が学内には非常に少ないこと、ネイティブ話者でなくても英語を使いこなして生活している学生たちが多くいること、ネイティブ英語にこだわらず外国語を積極的に使って活動していけることなどを伝えて、様々なプログラムを紹介し、参加を呼びかけている。

大学院学生から、修了前に故郷ポーランドの写真の展示会を開催したいという相談があった。教養教育院内のプロジェクト・ギャラリー「Clas」を予約し、「ポーランドの秋」という題で1週間の展示会が実現した。このギャラリーは今後も様々な場面で活用できそうなため、利用を検討したい。



写真展示会「ポーランドの秋」

インド哲学に詳しい教員研修生が、学内向けに1回、ラージャ・ヨガのセミナーを提供した。身体を動かすヨガと異なる瞑想のヨガで、学内から約10名の参加があった。またフランス語圏出身の学生たちが、フ

ランス語を学習する学生たちと昼休みに会話を楽しむ会を、毎週2回継続して主催した。学生が積極的に提案して、このような貴重な学習や交流の場が増えていくのは心強いことである。

■その他

南部生協「フレンドリー南部」食堂で、ベジタリアンが安心して食べられるメニューを提供することが検討されており、ベジタリアンのスタッフや学生と、情報提供に協力した。ハラルフード提供が既に実現し、今後さらに様々な文化に対応できるようになりそうである。学内の多文化環境が整備されていくよう、今後も諸機関や学生たちと協力しながら継続的に取り組んでいきたい。

3. 学部・大学院教育：授業

前期の基礎セミナー「多文化社会を生きる」の松浦教授を代表とする教員チームに田中は一部参加した。また後期の教養科目「留学生と日本」の浮葉准教授を代表とする教員チームには例年通り参加し、今後も使用できるような教材を作成した。今後基礎セミナーや教養科目開講科目の提供を少しずつ増やしていく予定である。

大学院国際言語文化研究科の「異文化コミュニケーション論」の授業は7年目となり、田中が担当して多文化学生チームで授業を進め、事例検討論文集の編纂をめざしてチームで討論し、各自が論文を執筆した。その編集・印刷のための資金獲得に向けて助成金申請などを行っている。(詳細は本年報の「異文化交流実践を授業にフィードバック」の項を参照)

4. チューター調整・指導

留学生センター所属の学生たちのチューター支援について、調整・指導の担当をし、チューター募集、組み合わせ、オリエンテーション、書類請求などの業務を行った。留学生センターでのチューター制度が4年目になり在生学生たちへの認知度も高くなって、能力の高いチューターが集ってくるようになった。

留学生センター所属生のうち、他大学進学予定者、教員研修生、日本語・日本文化研修生の渡日時の空港出迎えに関しては、留学生センターが担当することに

なり、出迎え希望があった学生にのみ、チューター支援の一環として、在籍生が出迎え支援した。

昼食時間の懇談会の準備調整も、留学生相談室、各部署の留学生担当教員及び、短期留学室と協力のうえ行なったが、留学生センターのチューターたちの参加は少なかった。チューターは全員他学部／研究科に在籍して広いキャンパスの様々な場所で学んでいるので、同じ時間に召集することが難しい。同理由から、チューターのためのオリエンテーションもほとんど個別に行っている状況である。チューター活動に要する相談室スタッフの時間的な負担は大きいですが、留学生にとってもチューターにとってもよい学びの機会となっているので、今後とも効率があがるようさらに工夫しながら進めたい。

5. 地域連携講演・文化交流

名古屋大学が位置する千種区の警察には、従来様々な形で協力してもらい、今年度は防犯についてのセミナーも行ってもらった。出身国や地域ごとに開催される学生集会などが他人によって思わぬ方向に利用されることなく行なえるよう、学生グループとも協力している。2009年1月から田中が担っている警察協議会委員を今年度も継続し、地域安全の視点から警察に意見を伝えている。

教育現場でボランティアで活動したいという希望を持つ教員研修生が複数あり、それぞれの希望に沿って学内の保育園や学童保育所、中・高等学校などの担当者につないだ。研修生たちにとっては日本で初めての現地研修となり、また現場からも、子どもたちにとってよい刺激となり、スタッフ側も子どもとの接し方や教育方法について学ぶことが多くあったという感想が届けられた。新しい環境の中で多くの活動を経験したい留学生の気持ちを応援しつつ、時間管理や責任感の大切さについて文化的背景も含めて伝えるようにしている。

6. センター内委員会

・安全防災部会:防災委員として、また相談室として、今年度も総長裁量経費を受けて環境学研究所と共同で留学生のための発展型防災研修上級編の開発プロジェクトに取り組んだ。昨年度行ったプロジェクト

から発展させ、名古屋市港防災センターの見学ガイドと音声ガイドを作成するという活動を、委員や大学院生たちと共に行った。(本年報「事業報告」を参照)

- ・PC管理委員会:PC室管理のうち、施錠等の見回りをする学生への指導・連絡を担当した。アルバイト学生と連絡をとりながら、夜10時まで使用されている建物とPC室の安全と環境整備に努めた。残念なことにPC室の機器が2回にわたって盗難にあった。さらなる安全対策のために委員会で検討して処置を講じたほか、施錠見回り学生へも協力を求めた。

7. 学内委員会

名古屋大学が運営する「こすもす保育園」の運営協議会議長を田中は2年目として継続担当した。設立4年目となり、具体的な運営の細部や駐車場の使い方などをつめる必要があったほか、増築という課題を無事終え、秋に新入園児たちを迎えるという一大イベントもあった。男女共同参画関係やハラスメント防止対策関係の委員としても、留学生相談業務で培った知識や経験を活かすように努めた。会議や打ちあわせが多くあって相談室にいられないことも多かったが、柴垣と田中で時間調整をしながら、相談室運営に支障をきたさないよう心がけた。

8. おわりに

2008年度に日本政府により打ち出された「留学生30万人計画」の中で、名古屋大学でも様々な施策が検討され実行されている。世界を舞台に活躍できる学生たちの育成に留学生センターが貢献できることは大きい。今後も学内外の様々な機関・人々と連携をとりつつ、教育交流を進めていきたい。

個人的なことになるが、田中は現在の仕事を始めてからもうすぐ20年になる。この間、二人の子どもを出産し育ててきた。夕方以降の勤務や宿泊を伴う出張をするのが難しい時期が長く続いたが、その間も同僚たちに助けられ、仕事を進められたことに心から感謝している。今年度は、一番たいへんな時期に教え励ましてくださった、元留学生センター教授の三宅政子氏をインドネシアに訪ねることができた。三宅氏は2004年夏に退職してバリに居を移してから6年間、多くの子どもたちの就学支援を行っており、元同僚である私たちも彼女の経験を通して教育交流についてより広く深い見地から学んでいると感じる。

子育て中の環境でできる仕事があれば積極的に貢献したいという考えから、これまで学内保育園や学童保育所の設立、学内の多文化環境整備や防災活動に関わってきた。子育てと研究を両立させるべく努力している留学生たちからの相談に対応することもできた。自分自身がより広範に動ける時期となってきた現在、日々の研究・教育活動を進めると共に、これまで受けてきた支援を様々な形で還元できれば幸いに思っている。

添付資料 1

2009年春
Bridges to Japan
●●●●●留学生センターワークショップ●●●●●

●●●●●留学生センターワークショップ●●●●●
日本の生活・社会について多文化の視点から学びます
日本文化や生活上の必要事項について話合いや実習を通していろいろな文化圏の人々と共に学びましょう。各分野の専門家の先生が講義・実演をしてください。

使用言語：英語と日本語
(どちらか一方は、学生による通訳)

●華道 華道ハバ代流教授 岡田佳恵先生
★14:45-16:15
4月21日、5月19日、6月16日、7月21日
留学生センター/CALE棟 201教室にて

●日本舞踊 瑞鳳流 瑞鳳とよ給先生
★6月24日 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟 CALE フォーラム

●着物(日本の伝統衣装)
駒きもの学苑 加藤かつ子先生
★6月30日 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟 CALE フォーラム

●書道 藤井書道教室 藤井尚美先生
★7月14日 14:45-16:15
留学生センターにて

日本での生活

●”危険それとも安全?”
-犯罪から身を守るために-
指導：千種警察署
★4月20日 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟
CALE フォーラムにて

●地震に備えよう
指導：名古屋大学研究科 山岡耕春教授
★6月2日 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟 CALEフォーラム

●引越し
-新しい住居の探し方-
★7月7日 14:45-16:15
留学生センターにて

世界を感じよう
(言語とコミュニケーション能力の向上)
●ランゲージ・シャワー
間違いを恐れずに、外国語で話し、聞き、ディスカッションしてみよう 5月～

●アラビア語初級講座(名古屋大学イスラム文化研究会主催) ★4月14日(火)～7月14日(火) 毎週火曜日
17:30-19:00 留学生センター-202

詳細はウェブサイトへ
www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/workshop.html
問合せ先:
adv@ecis.nagoya-u.ac.jp (田中/込み)名古屋大学留学生センター相談室(204)

2009 Spring
Bridges to Japan
●●●●●ECIS WORKSHOP●●●●●

Designed to learn Japanese life and society in a multicultural context

Through discussions and exercises on cultural or practical issues, participants with different cultural backgrounds will obtain wider views and experiences. Voluntary lecturers and professionals in the respective field will conduct some sessions.

Enjoy Japanese Culture

●Ka-do (Flower Arrangement)
Instructed by Prof. OKADA Kakei,
Hachidai-ryu School
★14:45-16:15, April 21, May 19, June 16 and July 21
at #201, ECIS/CALE Bldg.

●Buyou(Japanese Traditional Dance)
Instructed by Prof. ZUJHOU, Toyoe,
Zuihou-ryu
★June 24 14:45-16:15
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.

●Kimono (Japanese traditional costume) Instructed by Prof. KATO Katsuko, Koma Kimono School
★June 30 14:45-16:15,
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.

●Sho-do (Japanese Calligraphy)
Instructed by Prof. FUJII Naomi
Fuji Shou-do School
★July 14 14:45-16:15, at ECIS

Life in Japan

●”Dangerous or Safe?”
-to protect yourself from crimes-
Instructed by Chikusa Police
★14:45-16:15, April 20
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.

●Earthquake
Preparation & Damage Reduction
Instructed by
Prof.YAMAOKA Koshun, Res.
Center for Seismology, Volcanology
and Disaster Mitigation, NU
★14:45-16:15, June 2 at CALE
Forum, ECIS/CALE Bldg.

●Moving
-How to find an accommodation-

Feel the World
(Develop language and communication skills)

●Language Shower
Speak, listen, or discuss, without worries about making mistakes! Will start from May!

●Introductory Arabic Course
Organized by ICANU April 14-July 14
Every Tuesday ★17:30-19:00 at ECIS202

For further information
www.ecis.nagoya-u.ac.jp/en/exchange/workshop.html
Contact: adv@ecis.nagoya-u.ac.jp (Tanaka/Fumi)

2009 Autumn Bridges to Japan ECIS WORKSHOP

Designed to learn Japanese life and society in a multicultural context

Through discussions and exercises on cultural or practical issues, participants with different cultural backgrounds will obtain wider views and experiences. Voluntary lecturers and professionals in the respective field will conduct some sessions.

Enjoy Japanese Culture

- **Ka-do (Flower Arrangement)**
by Prof. OKADA Kakei, Hachidai-ryu School
★ 14:45-16:15 (Tuesdays),
Oct.20, Nov.17, Dec.15 and Jan.19
at #201, ECIS/CALE Bldg.
- **Origami**
by Prof. IKEl Keiko, Shirayuri-Kai
★ Jan.16 14:45-16:15 at CALE Forum,
ECIS/CALE Bldg.
- **Kimono (Japanese Traditional Costume)**
by Prof. KATO Katsuko, Koma Kimono School
★ Feb.2 14:45-16:15 at CALE Forum,
ECIS/CALE Bldg.

Life in Japan

- **Earthquake Preparation & Damage Reduction**
Instructed by
Prof.YAMAOKA Koshun, Res.
Center for Seismology, Volcanology
and Disaster Mitigation, NU
★ December 1 14:45-16:15
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.
- **Moving**
-How to find an accommodation-
★ December 8 14:45-16:15
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.

Language: English and Japanese
(Translation by a volunteer student)

Feel the World
(Develop language and communication skills)

- **Language Shower**
Speak, listen, or discuss in foreign languages, without worries about making mistakes!
★ October 28(Wed) 16:30-18:00,
at CALE Forum, ECIS/CALE Bldg.
- **Arabic Calligraphy**
Co-organized by ICANU
★ 17:00-18:30 (Fridays)
Dec.11, Dec.18, Jan.15, Jan.22
at #201, ECIS/CALE Bldg.
- **The feeling of Tango**
Co-organized by GSD, NU
★ 18:00-19:30 (Thursday)
at Toyota Auditorium-Symposium Hall

For further information www.ecis.nagoya-u.ac.jp/en/exchange/workshop.html
Contact: adv@ecis.nagoya-u.ac.jp (Tanaka/Fumi)
ECIS Advisors' Office (#204), 2nd floor of Education Center for International Students, NU

2009 Autumn Bridges to Japan ECIS WORKSHOP

Designed to learn Japanese life and society in a multicultural context

日本の生活・社会について多文化の視点から学びます
日本文化や生活上の必要事項について話し合いや実習を通していろいろな文化圏の人々と共に学びましょう。各分野の専門家の先生が講義・実演をしていただきます。

使用言語：英語と日本語
(どちらか一方は、学生による通訳)

日本文化を味わおう

- **華道** 華道八代流教授 岡田佳恵先生
★ 14:45-16:15 (火曜日)
10月20日、11月17日、12月15日、
1月19日
留学生センター/CALE棟 201教室
- **おりがみ** 白ゆり会 池井経子 先生
★ 1月26日 14:45-16:15 (火曜日)
留学生センター/CALE棟 201教室
- **書物** 駒きもの学苑 加藤かつ子先生
2月2日 14:45-16:15 (火曜日)
留学生センター/CALE棟 201教室

日本での生活

- **地震に備えよう**
指導:名大環境学研究所 山岡耕春教授
★ 12月1日(W) 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟 CALE707-1A
- **引越し** -新しい住居の探し方-
★ 12月8日(W) 14:45-16:15
留学生センター/CALE棟 CALE707-1A

世界を感じよう
(言語とコミュニケーション能力の向上)

- **ランゲージ・シャワー**
★ 10月28日(水) 16:30~18:00
留学生センター/CALE棟 CALE707-1A
11,12月1月開催予定
- **アラビア書道**(名古屋大学イスラム文化会と共催) 17:00-18:30(金曜日)
★ 12月11日、12月18日、1月15日、
1月22日 留学生センター/CALE棟 201室
- **タンゴにおけるコミュニケーション**
ジョン(名大国際開発研究所と共催)
★ 1月21日(木) 18:00~19:30
名大豊田講堂シンポジウム会議室

詳細はウェブサイトへ
www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/workshop.html
問合せ先:
adv@ecis.nagoya-u.ac.jp (田中/ひみ)名古屋大学留学生センター相談室(204)

LANGUAGE SHOWER

Let's speak, listen or discuss on various topics in
Foreign Language
without worries about making mistakes

Let's talk about summer memories!
October 28(Wed.), 16:30-18:00
at CALE Forum (2nd floor of ECIS/CALE)

- ◆ **Language to use in the session:**
English (Level doesn't matter), Japanese (basic knowledge is necessary), or others (we will make a group of the language, if there are two or more people who wish to speak the same language).
- ◆ **REGISTRATION:** Please register at ECIS Advisors' Office #204. You may do this by calling us (052-789-5404) or e-mailing to adv@ecis.nagoya-u.ac.jp. Foreign students' family members over 18 years old will be welcome too. (Please let us know your name, affiliation, and language you wish to use in the session.)
- ◆ **Language Supporter wanted:** We welcome those who are interested in helping participants develop their command of foreign languages.

ランゲージ・シャワー

間違いを恐れずに外国語で話し・聞いて・ディスカッションしてみよう!

--- 夏の思い出を話そう! ---

10月28日(水)16:30-18:00
留学生センター/CALE 2階 CALE フォーラムにて

- ◆ **使用言語:** 英語(レベルは不問)、日本語(第二外国語履修などで基礎レベルを有している方)、その他の言語(参加者で2人以上同じ言語で話したい人がいる場合、グループを作ります。)
- ◆ **申込み:** 事前に留学生センター相談室(204室)で申し込むか、電話(052-789-5404)かメール(adv@ecis.nagoya-u.ac.jp)で申込んで下さい。(氏名・所属、使用したい言語を知らせてください。)
- ◆ **言語サポーター求む:** 参加者の言語の上達を助けてくれる人の参加も歓迎しています。

● Organized by ● Nagoya University Language Shower Student Volunteer Committee, ECIS Advisors' Office (#204)
● 主催 ● 名古屋大学生 Language Shower ボランティア / 留学生センター相談室(204)
【Contact】 Tanaka / Fumi , ECIS Advisors' Office, Nagoya University 名古屋大学留学生センター相談室(田中/史)
TEL:052-789-5404, Email: adv@ecis.nagoya-u.ac.jp